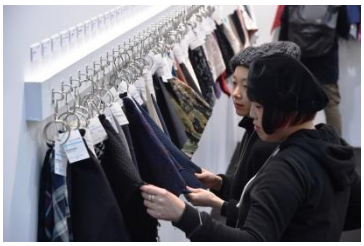
JFW テキスタイル・フェア 2017AW【開催報告】

[会期] 2016 年 11 月 29 日（火）～30 日（水）
[会場] 東京国際フォーラム 展示ホール E ＋ ロビーギャラリー
[主催] 一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構
JFW テキスタイル事業運営委員会
[後援]
経済産業省 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）
一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会 日本繊維輸入組合／日本繊維輸出組合

素材手当の早期化が世界的な傾向となっている中、国内最大級の服地見本市「JFW テキスタイル・フェア」が、11 月 29 日、30 日の両日開催された。昨年に続き 11 月末という会期の遅さが懸念されたが、開場と同時に全国のテキスタイル・メーカやコンバーターが開発した最新素材を求めるバイヤーで会場は埋め尽くされ、各所で熱心な商談が繰り広げられた。他の繊維・ファッション系の展示会が出展者・来場者減に苦戦する中、Premium Textile Japan（PTJ）と JFW Japan Creation（JFW-JC）は今回も盛況で、取り巻く環境の厳しさとのギャップすら感じる程だった。これはアパレルやコンバーターが、今迄以上により良い素材を幅広い商材の中から探す傾向が強まり、厳選された出展者と全国のあらゆる産地の商材を見る事が出来る PTJ と JFW-JC が、そのニーズに合致していると思われる。実際、PTJ 初出展企業の Top は、「正直、ここまで商談が出来るとは思わなかった。予想のほぼ倍のスワッチ依頼があった」と手応えを実感していた。

■ トレンド＆インデックス・コーナー（ロビーギャリー）

毎回趣向を凝らした施工が話題となるトレンド＆インデックス・コーナー。今回もミラノ、上海と同じコンセプトながら東京用にアレンジした大胆な格子柄と墨グラフィックで構成。ZEN を感じる空気感をモダンに演出し来場者を迎えた。展示内容は JFW が発信するテキスタイル・トレンドディレクションを基に JFW-JC と PTJ 双方の出展者から集めた素材をテーマ毎に分類・編集したトレンド・コーナー。また、出展各社一押し素材を展示するインデックス・コーナーも、バイヤーを効果的に出展小間へ誘導する人気のコーナーとなっていた。



➢ **トレンド・テーマ別展示点数** ＊別添ガイドブック（JAPAN TREND）参照

○ 夢想の禅問答 ：209 点 ○ グラフィカル ＝ クラシカル ：205 点
○ 思い出、つれづれに ：209 点 ○ 無限のキャンパス ：208 点 **計 831 点**

➢ **インデックス・コーナー 展示点数**

□ PTJ ：245 点 □ JFW-JC ：249 点 **計 494 点** **トレンド＋インデックス 合計 1,325 点**

【Premium Textile Japan 2017 Autumn/Winter 開催概要】

◇ 日時：2016 年 11 月 29 日（火）～30 日（水） 10：00～18：30/18:00
◇ 会 場 ：東京国際フォーラム ホール E2
◇ 来場者 ：バイヤー及び招待者限定 [入場無料]
◇ 出展者 ：書類及びスワッチ審査を通過した厳選出展者 （団体不可）

前回導入した PTJ 新型ブースは白パネルに黒フレームという、よりシャープなデザインが出展者・来場者の双方から好評だった事を受け、今回も同型ブースを採用。また、前回より始まったプログラム“Textile Workshop ～日本の素材を学ぼう！～”も、今回は秋冬シーズンに合わせて「パイル織・編物」と「ウール素材」をテーマに開催された。

■ PTJ2017AW 出展者 （昨年実績：88 件/120 小間） *別添ガイドブック参照

ゾーン	件数	小間数(8 ㎡換算)
A 織物短繊維(コットン、麻、ウール、複合)	33	40.6
B 織物長繊維(化合繊、シルク、機能素材、複合)	24	39.5
C 染色・後加工、プリント、刺繍・レース、皮革	20	21.5
D 服飾資材、ニットファブリック、撚糸、パイルファブリック	8	14
合計	**85**	**115.6**

〇海外：5 件/5 小間（イタリア、インド、台湾、韓国 2 件/2 小間） 〇新規・復活出展：9 件/11 小間

□ Textile Workshop ～日本の素材を学ぼう！～

◇ 開催日時 :2016 年 11 月 29 日（火）～30 日（水）10:30～（60 分）
◇ 開催場所 :東京国際フォーラム PTJ 会場内の特設レクチャールーム
◇ 受講者: アパレル・服飾雑貨メーカー、小売り、デザイナーメゾン等に勤務し、商品企画・素材仕入れに携わる職歴５年未満の若手社員（＊学生不可）
◇ 参加人数 ： 各回約２０名

【 プログラム内容 】
[１] 日本の素材産地とは・・・【講師】 JFW テキスタイルコーディネーター 久山 真弓氏
[２] 産地レクチャー
- ２９日（水） ＜パイル織物＞ 【講師】妙中パイル織物㈱ 代表取締役社長 妙中 清剛氏
- ３０日（木） ＜ウール素材＞ 【講師】早善織物㈱ 代表取締役社長 早川 隆雄氏

【JFW JAPAN CREATION 2017 開催概要】

◇ 日時：2016 年 11 月 29 日（火）～30 日（水） 10：00－18:00/18：30
◇ 会場：東京国際フォーラム ホール E１ ＋ロビーギャラリー
◇ 来場者：バイヤー及び招待者、業界関係者、学生
◇ 入場料：当日 2,000 円、Web・学生割引 1,000 円（団体学生 500 円）

JFW JAPAN CREATION 2017

■ JFW-JC2017 出展者 (昨年実績：97 件/279 社/227.9 小間)

*別添ガイドブック参照

ゾーン	件数	参加企業数	小間数(6 ㎡換算)
テキスタイル	73	225	149.2
服飾資材	14	24	20
繊維関連・製品	5	8	12
皮革・毛皮	4	45	36
メディアスタンド	2	2	1
合計	98	**304**	**218.2**

○海外:6 件/34 小間 (台湾:3 件/17 小間、韓国:2 件/16 小間、香港:1 件/1 小間) ○新規・復活:13 件/16.6 小間

今回もアジアを中心に多くの海外バイヤーが来場した。出展者からも「中国人バイヤーが商社アテンドで来たが、非常に熱心だった」との声が多く聞かれた。以前のスワッチだけが目的の来場では無く、実に購買意欲は旺盛なバイヤーが増えている。一方、海外出展者も台湾紡拓会の台湾 Pavilion と韓国繊維産業連盟（KOFOTI）の韓国 Pavilion を中心に、27 社・団体が出展した。両国とも欧米向け輸出が急減速という事もあり、改めて日本市場への参入意欲は強い。KOFOTI では今回、JFW-JC 出展希望の韓国企業に見学を推奨、その内、新規 4 社（何れも PV,MU に出展）が次回の出展希望を出しているという。

● 関連プログラム

○ Forum（セミナー） 『NY テキスタイル市場を狙う！～米国のテキスタイル市場動向報告と市場参入の鍵～』
✧ 講師：武藤 和芳 氏（ジェトロ米国テキスタイル分野現地事情視察調査ミッション派遣専門家）
✧ 会期・会場：11 月 29 日（火）16:30～ フォーラム会場 （主催：JETRO/協力：JFW）

ジェトロと JFW が連携して米国、特に NY 市場における繊維業界の現状と日本企業の効果的な市場参入の仕方を見出す為に、本年 7 月に専門家を NY に派遣。現地では、各開催中見本市（PV in NY、Texworld USA、SPIN EXPO in NY、KOREA Preview in NY）の視察に加え、アパレルの生地調達担当者や生地売込みに携わるエージェント、加えて見本市出

展各社からヒアリングを実施した。そこから浮き彫りになった実情と市場参入のキーポイントをセミナーにて報告。当日は用意した席を上回る聴講者があり、ほぼ満席状態。JETRO の行ったアンケートでも非常に評価の高く、繊維ニュースの 1 面を飾るセミナーとなった。

○『**10th FORM PRESENTATION**』 人材育成産学コラボレーション
（主催：繊維ファッション産学協議会、特別協賛：JFW、協賛：UA ゼンセン、協力：カイハラ㈱）
次世代の人材育成を目的とし 2007 年にスタートした産学コラボレーション「FORM PRESENTATION」（FP）も、今年で 10 回目を迎えた。年々注目度の高まり多くの来場者が立寄る FP だが、今回は日本を代表するデニム企業カイハラ(株)の協力を得て「進化するデニム」をテーマに新しい価値創造を追求。素材テーマは「無限大デニム」、ファッション・テーマは「旅するデニム」。無限の可能性を秘めた進化するデニムと様々な旅のシーンをデザインソースに、最先端の技術を駆使したデニム素材を、学生達の様々なアイデアで表現した“デニムの新しいスタイル”作品を展示発表した。

【10th FORM PRESENTATION 審査通過者】（学校名 / グループ名 / テーマ）
○ エスモードジャポン東京校 / Int.（イント） / 旅で出会う、わたし
○ 香蘭ファッションデザイン専門学校 / dodo /doodo ドレスアップ・デニム -ラグジュアリー-
○ 東京モード学園/ Capricious world（きまぐれなこの世界）/ 快適デニム
○ ドレスメーカー学院 / Voyage/ tenue de soiree
○ 名古屋ファッション専門学校 / 大和撫子（Yamatonadeshiko）/ 温泉街
○ 名古屋モード学園 / DENIM Lab.(デニム ラボ) / DENIM RUN
○ 文化学園大学 / CLEAR（クリア） / CLEAR
○ 文化ファッション大学院大学 / On the way / On the way from back
○ 文化服装学院 / NEO NOMADISM / NEO NOMADISM

○ PIGGY'S SPECIAL ピッグスキン・ファッションショー （主催：東京都、東京製革業産地振興協議会）
毎回、東京を代表する若手デザイナーを起用し注目を集める PIGGY'S SPECIAL。今回は初めてロビーギャラリーに常設ランウェイを設け、初日にプロ部門、2 日目に学生部門のランウェイ・ショーを実施した。

➢ 11 月 29 日（火） 13:30～/15:00～：プロ部門 （ブランド / デザイナー）
* MIDDLA / 安藤大春
* TAMAKI FUJIE / 藤江珠希
* ネバアランド / Eily・Jammy

➢ 11 月 30 日(水)：学生部門 （東京都各種学校、専修学校：11 校）
○ 12:30～ / 15:30～：東京モード学園、華服飾専門学校、ドレスメーカー学院, 東京ファッション専門学校、専門学校ファッションカレッジ桜丘、江東服飾専門学校
○ 14:00～ / 17:00～：文化服装学院、専門学校田中千代ファッションカレッジ、大森家政専門学校、専門学校青山ファッションカレッジ、織田ファッション専門学校

■ PTJ2017AW、JFW-JC2017の来場者数

展示会名	アパレル・小売	問屋・商社・企画会社	PRESS	主催関係者・関係団体	Visitor	Student	計	総来場者数
PTJ2017AW	6,372	5,926	107	183	640	−−	13,228	16,285
JFW-JC2017					1,769	1,288	15,645	
								前年比９６%

*前回まで1社５枚に制限していた出展者PASSを今回より出展者の自己申告に切り替えた事で、ブース内の常駐対応者以外の出展企業の関係者がノーカウントで多数入場。実際、東京国際ホールに備え付けられているレーザー式自動集計では、昨年を大きく上回る（前比117.6%)人数を計測している

«出展者の声»

- びっくりする程のお客さんと、ピックアップ数を得た（PTJ 初出展者）
- 正直、ここまで商談が出来ると思わなかった。想定の倍以上のスワッチ依頼を得た。展示した製品もレベルの高いデザイナーに依頼した事で非常に効果的だった（PTJ 初出展者）
- 今回は抽選で出展場所に恵まれず来客数では下回ったが、回を重ねる毎に来場バイヤーの質は向上し、商談自体は中身の濃い内容だった（PTJ 初回からの出展者）
- 最も奥の位置だったので来客を心配したが、取り越し苦労だった。今回も多くのバイヤーと商談出来て満足（PTJ 出展者）
- 今回は見せ方を変えた。技術の説明ではなくテーマに沿った提案をしたが、来場者からは“解り易い”と大変好評だった（PTJ 出展者）
- 今まで自社展開催と日々の営業活動で広範囲行に商圏をカバーしてきたつもりだったが、今回初めて出展し多くの新規客と商談が出来た（PTJ 初出展者）
- 商社だけでなくアパレルのビッグネームも来訪し、非常に感触が良い。（PTJ 海外初出展者）
- PTJ 出展に合わせて素材のブランディング準備を進めた。毎回、多くの来場者が立寄ってくれるが、それに甘えることなくこれからも内容の見直しと見せ方の工夫を重ねて行きたい（PTJ 出展者）
- 洋服用途だけでなく服飾雑貨へもアプローチするために出展したが、狙い通りだった（JC 初出展者）
- 産地展へも出展しているが、比べ様がない位に集客力に差がある。東京に事務所を設ける余裕がない我々には、年に１回の JFW-JC が非常に大事な展示会となっている（JC 出展者）
- 中国人バイヤーが商社アテンドで来た。出品していた素材のアレンジをしたいらしく、別注ミニマムや納期など非常に熱心に聞いてくる。昔の様なスワッチだけが目的の来場ではない（JC 出展者）
- 主催者からのアドバイスを基にブース仕様をオープンに改善し、評判は良かった（JC 海外出展者）

«来場者の声»

- 他の素材展や産地展には無い JFW のトレンド＆インデックス・コーナーは大変便利。いつもこのコーナーで、これから回るブースを決めている（常連アパレル）
- 触ると天然繊維のような合繊素材に出会えた。また、見た目とは全く違う風合いの天然繊維など日本の加工技術はすごいと改めて感じた。この展示会では毎回新しい発見がある（アパレル）
- 市況は悪いが、この展示会は毎回熱気に溢れ、出展している企業は元気が良い（大手コンバーター）
- 見せ方の工夫とセンスの差が、混んでいるブースと空いているブースの差となっている（専門商社）
- 日本はレベルが高い。他の国では作れない素材に出会えるから飛行機代を払ってでも来る価値はある（海外アパレル）
- 産地に出向く同業者もいるが、我々にはそこまで経費と時間は掛けられない。だから１ストップで日本全国のメーカーや、コンバーターの素材を見られるこの展示会は、非常に便利（海外アパレル）
- 資材用途に開発された素材より、洋服用途に開発された素材の方が圧倒的に面白いものが多い。芯などの工夫で我々が扱う雑貨にも採用できるので毎回、新しい素材を探しに来る（雑貨メーカー企画）
- ロビーギャラリーのピッグスキンショーは、会場が華やいだ雰囲気になるので良かった（業界関係者）
- 課題制作のために街で買える素材しか見た事がなかったが、この展示会では普段見た事のない素材を沢山見て触る事が出来た。改めて素材を勉強しなくてはいけないと思った（専門学校生）